

やさしさだより

平成 29 年 1 月 18 日
尼崎市立 浜小学校
人権教育部 第 8 号

明けまして おめでとうございます。
今年もどうぞよろしく願いいたします。

新しい年となりました。例年より長い冬休みでしたが、いかがでしたでしょうか。
子どもたちも新年を迎え、また気持ちを新たに頑張ろうという思いを持ったことだと思います。

さて、昨年 1 2 月の人権週間に持ち帰らせた「ほほえみ」を読まれてのご意見、ご感想をたくさん頂戴いたしました。その一部を紹介させていただきます。

【 1 年 】 「ないところまるもの」

・一番大切で、ないと困るのは「家族」でした。家族が大切な理由は、一人では何もできないからだそうです。家族がどれほど支えになっているのか、再認識することができました。

・子どもにとって何が大切なのかを知ることができました。一番はじめに「いのち」と書いてくれていたので、よかったです。物であふれている現代、ないとこまるもの、なくてもこまらないものを見直すことができました。

・今の世の中、ないとこまるものというよりは、なくてもこまらないものにあふれているなど、改めて思いました。今回の事を機会に、本当に必要なものについてたくさん話ができて、よかったです。



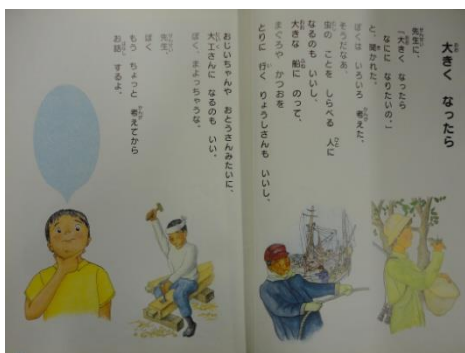
【 2年 】 「大きく なったら」

・いつのまにか忘れていた子どもの頃の夢を思い出しました。夢…というより、将来の自分に希望を持ち続けてほしい。なりたいもの、やりたいことが変わっても、自分に希望を持ち続けられさえすれば、人間なんとか頑張っていける。私は、わが子の可能性を信じられる、子どもに寄り添える親でありたいと思いました。

・子どもにとって、大きくなったら何になりたいかって考える事はとても大切なことだと思います。いろいろなことに興味を持ち、目標を持ったり考えたりしながら成長してもらいたいです。

・子どもは今、将来なりたい職業があり、とても興味を持っています。社会にはたくさんの仕事があり、どの仕事も大切なんだよ、という話をしました。

・子どもと一緒に考える時間がとても大切だと思いました。子どもの気持ちを知るよい機会になりました。



【 3年 】 「だいこんとにんじん」

・だいこんがにんじんをからかっているところを読んで、かわいそうに感じましたが、にんじんも同じようにだいこんをからかっていたので、がっかりしました。

・みんなが言っているから、自分も同じように言うのではなく、おかしいと思うことは言わない、間違っている子がいたなら間違いを教えてあげるよう、家で話し合いをしたいと思います。

・いじめ問題は、年々、根が深くなっているようでとても怖いです。解決策はなかなか難しいとは思いますが、折りに触れ、子どもたちに言い聞かせていく、地道な努力が必要だと思います。

・子どもには、人にはそれぞれ個性があって、みんな見た目も性格も考え方も違う。みんな違って当たり前だということを教えていかなければいけない



と思う。世の中から、いじめをなくすためには、大人が子どもにそういう差別はいけないと、しっかり教えないといけない。

【 4年 】 「やくそく げんまん」

・4年生になると、仲間意識というか、連結したがるようになるのだなあと思いました。と同時に連結すると、他の子どもたちをはねのけにするかもという感じのもなるのだなあ…。これが、いじめにつながることもあるかもと思いました。

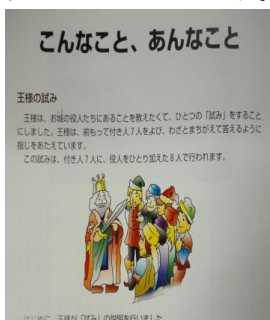
・日常会話の何気ない一言が、後々になって、けんかの原因になってしまったり、人を傷つけることになってしまふことがあるのだと、子どもと話をしました。なかなかこんな深い話をする機会がないので、今回、子どもと話をできたことはとてもよかったです。

・このお母さんのように私もふだんから、子どもと一日の出来事などを話し合えるように心がけてまいります。



【 5年 】 「こんなこと あんなこと」

・やっではいけないことはたくさんあるが、気づかず、人を傷つけてしまったりしていることもあると思う。人を傷つけたり、悲しい思いをさせないように、日々の言動や行動を見直していきたいです。



・他人と意見や答えがちがうとき、周囲の反発をおそれがちになりますが、正しいと思ったことは、勇気を持って、発言なり行動なりをしていきたいと思っています。

・高学年になると、物事の善し悪しもはっきり判断できるのですが、悪いこととわかっているのに、他の友だちにつられて、同じ事をやってしまう…。

止めよう！だめ、とはっきり言える勇気を持つことの

大切さを再認識しました。親としても模範にならなければと感じました。

【 6年 】 「弟に はく手」

・お姉さん以外の、明子さんのような上級生がいてくれたら、とてもすてきなあと、温かい気持ちになりました。浜小の運動会でも、リレーの時にそれぞれの個性にあった走り方をして、それをサポートするお友だちの姿など、感動しました。みんなで助け合って、楽しい生活が送れる環境が学校だけでなく、社会全体がそうなるといいな、と思いました。

・学校にはいろいろな子どもが集まっているので、苦手なことや不得意なことも他の子たちでフォローすることが、自然に当たり前、みんなができたらいいなあとと思いました。

・まわりの環境って大きいと思います。親を見て育つと思うので、私も自分の言動に気をつけていきたいです。人の気持ちになって考えられる、思いやりのある大人になってほしいです。



<たくさんのご協力をいただきまして ありがとうございます。>

「ほほえみ」を読まれてのご意見、ご感想を読ませていただいていると、たくさんの気づきがありました。感じたことをいくつか紹介させていただきます。

○家庭でわが子と向き合って話をする事の大切さ

子どもとの時間が大切さを頭ではわかっていても、日々の家事や仕事に追われてしまつて…ということが多々あります。「ほほえみ」を一緒に読んで話をするということ をきっかけにして、家庭で話し合うことの大切さが再確認できたことがよかったです。

○人と人とのつながりの大切さ

大人も子どもも人とのつながりを大切に思っています。誰もが家族や友達とのあたたかいつながりや安らぎを求めています。人とのあたたかいつながりを広げるために、まず、自分から家族や身近な人に目を向け温かい心で接していきたいものです。

○子どもの願いと親としての思い

子どもの夢や願いは様々です。親の思いも様々です。でも、子どもは「自分の夢に向けて楽しく向かっていきたい」、親は「子どもの夢や目標を応援し、健やかにこころ豊かに育ち、自立して行ってほしい」という思いはそれぞれに共通していることだと感じました。大人が子どもの成長を見守り、支援していくことが大切だと思います。私たちもご家庭や地域の皆さんと共に子どもの育ちを支援していきたいと思ひます。

(校長 中根 孝介)